



Center for Statistics and Information
Rikkyo University

■ 2018年度

活動報告書

■ CSI Activity Report

立教大学 社会情報教育研究センター

2018年度 活動報告書

April 2018 - March 2019

CSI Activity Report



目次 Contents

1	2018年度の主な事業活動.....	3
2	各部会の事業計画および事業報告.....	5
1)	政府統計部会.....	5
2)	社会調査部会.....	10
3)	統計教育部会.....	16
3	資格支援事業.....	21
1)	社会調査士.....	21
2)	統計検定.....	24
4	教育支援事業.....	25
1)	正課科目の開発・提供.....	25
2)	各種コンテンツの開発および改修.....	26
5	研究支援事業.....	27
1)	調査研究コンサルティング.....	27
2)	統計セミナーサポートスタッフ.....	28
3)	対外連携活動.....	28
6	出版物.....	29
7	組織図および構成メンバー.....	30

1 2018年度の主な事業活動

2018年

4月

- 16日 統計検定 学内申し込み受付開始（～5月7日）
- 18日 第1回 CSI センター運営会議
- 23日 統計検定対策ガイダンス(池袋・新座キャンパス中継)

5月

- 16日 第2回 CSI センター運営会議
- 17日 第1回 CSI センター連絡会議
- 29日 IASSIST 学会出席（～6月1日、朝岡助教・高橋助教）

6月

- 4日 社会調査士（キャンディデイト）資格の春学期・科目証明書申請（～6月15日）
- 13日 第3回 CSI センター運営会議
第1回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの使い方・探し方」（講師：高橋助教）
- 17日 統計検定 JINSE 特設会場受験 実施
- 22日 第1回 CSI 統計活用セミナー「SPSS によるマイクロデータ分析」（講師：濱本助教）

7月

- 4日 グローバル教養副専攻説明会
- 5日 第2回 CSI センター連絡会議
- 30日 SSH 高校生向け統計教育セミナー（市立千葉高等学校） JINSE 高大連携委員との共同開催

8月

- 25日 JMOOC gacco「統計学Ⅲ」対面授業（共催）
- 31日 教務部 情報リテラシー研修（講師：山口和範教授）

9月

- 8日 社会調査協会：S1 科目講習会（社会調査部会対応）（～9月11日）
- 9日 経済統計学会全国研究大会（和歌山市）学士研究報告会参加（櫻本准教授・濱本助教・西林助教）（～9月12日）
- 10日 教務部 情報リテラシー研修（講師：山口和範教授）
- 24日 第2回 CSI 統計活用セミナー「地理情報データ分析セミナー①」（講師：小西純氏）
- 26日 社会調査士資格申請ガイダンス（新座キャンパス、講師：加藤教育研究コーディネーター）

10月

- 1日 第3回 CSI 統計活用セミナー「地理情報データ分析セミナー②」(講師:小西純氏)
社会調査士(キャンディデイト)資格の秋学期・科目証明書申請(～10月12日)
- 3日 第4回 CSI センター運営会議
- 10日 第2回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析1 クロス集計・相関係数」(講師:高橋助教)
- 11日 第3回 CSI 連絡会議
- 19日 第1回統計調査士対策セミナー「統計制度で点数アップ」(講師:西林助教)
- 31日 第1回統計検定対策セミナー「2級試験対策」(講師:山口助教)

11月

- 7日 第5回 CSI センター運営会議
第3回社会調査データ活用セミナー「社会調査データの解析2 回帰分析」(講師:朝岡助教)
- 13日 政府統計部会 福岡県田川市中小企業振興基本調査 市民向け報告会(福岡県立大学)
- 14日 第2回統計検定対策セミナー「2級試験対策」(講師:山口助教)
- 25日 統計検定 JINSE 特設会場受験 実施

12月

- 3日 第4回 CSI 統計活用セミナー「地域産業振興のための事業所調査(基礎編)」(講師:菊地進名誉教授)
- 5日 第9回社会調査フォーラム(太刀川記念第1・2会議室)(講師:大久保将貴氏)
- 10日 第5回 CSI 統計活用セミナー「地域産業振興のための事業所調査(応用編)」(講師:菊地進名誉教授)
- 12日 第6回 CSI センター運営会議
- 13日 第4回 CSI センター連絡会議

2019年

1月

- 16日 第7回 CSI センター運営会議
- 21日 社会調査士 指定科目証明書申請受付(～2月1日)

2月

- 28日 社会調査士 指定科目証明書申請受付(～3月8日)
研究紀要『社会と統計』第5号発行
東温市『資料版』報告書発行
田川市報告書発行
2018年社会調査士科目(S2)講習会(～3月5日)

3月

- 6日 第8回 CSI センター運営会議
- 14日 第5回 CSI センター連絡会議
- 23日 社会調査士資格申請書・変更届書提出期間(池袋・新座～3月27日)

2 各部署の事業計画および事業報告

1) 政府統計部会

2018 年度事業計画

(1) 公的統計の二次的利用制度の活用推進

これまで実施してきた取り組みとして、地域の個票データを利用したアンケート集計の教育事業、統計作成（オープンデータも含む）実務者へのヒヤリング、アンケート集計、個票分析に必要な情報収集活動（国際マイクロデータベース）がある。これらの活動については継続して随時実施する。本年度は統計法の改正に合わせて推進される公的統計の二次的利用制度（匿名データ利用、オーダーメイド集計）に関する紹介に重点を置く。そのため、実際に利用を試みるとともに、利用体験を収集し紹介する。

(2) 統計教育コンテンツの作成・充実と利用の促進

A. 公的統計利活用・マイクロデータ

- ① 公的統計学習コンテンツ Official Statistics Contents for Multi-user（すたまる）
- ② 公的統計総合学習コンテンツ Official Statistics Navigator（すたなび）
- ③ 将来人口推計コンテンツ Future Population Projection Contents（ポコ）
- ④ 経済波及効果分析コンテンツ Repercussion Effect Analysis Contents（リコ）

→②～④は①改修後、統廃合予定。

- ⑤ SPSS を利用したマイクロ統計分析コンテンツ
- ⑥ 公的統計の二次的利用制度に関する学習コンテンツ

B. 統計検定統計調査士・専門統計調査士資格取得支援事業

- ⑦ 統計検定・統計調査士受験学習コンテンツ
- ⑧ 統計検定・統計調査士得点源対策問題集
- ⑨ 統計検定・専門統計調査士対策小冊子（新規作成）

統計法が再度改正予定で、統計制度や統計の仕組みが変わろうとしているため、その方向性を視野に入れて、徐々にコンテンツの改良を進める。①は統計改革によって、省庁間の統計調査が統廃合されてきているため、それに合わせて3年程度かけて改修を行う。②～④は、e-Stat や RESAS の普及によって徐々に統計表と利活用ツールがセットで提供されるようになってきているため、それに合わせてすたまるに含める形式で、統廃合を進める。

e-Stat の GIS が大変充実し、フリーで GIS による分析が誰でもできるようになってきた。GIS 機能の充実についても①の回収時にカバーするようにする。

統計法改正によって、私学にもサテライト機関応募の推進が呼び掛けられる時代が来ると見込まれている。情報収集を行って、⑤～⑥に疑似マイクロ、将来整備が見込まれるパブリックユースデータといった広範囲のミ

クロデータ群をコンテンツでカバーできるように数年かけて改修を進める。

部会作成の上記①～⑨のコンテンツ（⑨は新規作成予定）について、講習会や授業内利用による経験を踏まえ、さらなる内容の改良を図る。また、教員に向けた説明会、学生に向けた講習会を開催し、利用を促すとともに教育利用の経験を集約する。⑦は統計法改正に合わせて 2018 年度内に第 5 版の準備を進める（発行時期は未定）。改訂に合わせて、⑧との一体化および専門統計調査士対策の要点をまとめた⑨の発行も視野に入れる。講習会は上記よりいくつか選び、春学期・秋学期に池袋・新座で随時実施する。

（3） 地域における統計分析と紹介

福岡県田川市における中小企業振興基本調査について、調査データの分析を受託するように準備を進め、受託できた場合は、2018 年度に報告書など作成業務を進める。本事業では小地域の産業の現状を統計でとらえる。主要な業務は以下の通り。

- ・ 中小企業振興基本調査結果分析(集計結果の提出)
- ・ 中小企業振興基本調査報告書作成
- ・ 中小企業振興基本調査結果報告会の開催（2018 年度内を予定）

（4） 公的統計の二次的利用を含む個票を使用した統計データの利活用制度の推進

平成 30 年統計法改正によって、これまでよりもマイクロデータの利活用の範囲が広がろうとしている。政府統計部会としては、他の私学と連携しながら、サテライト機関に向けた情報収集を進める。

部局としては、これまで通り学内研究者向けに公的統計の 2 次的利用制度と国際マイクロデータベースの紹介を進める。公的統計の 2 次的利用制度（匿名データ利用、オーダーメイド集計）に関する紹介を行う。そのため、実際に利用を試みるとともに、利用体験を紹介する。また、2 次的利用を促すため、教育用マイクロ統計分析コンテンツを活用し、その教材としての完成度を高める。

（5） CSI 統計研究会・懇話会、講習会・講演会の開催

調査統計および加工統計の作成機関の担当者を招き、統計研究会を開催する。また、統計利用とも関わる講習会・講演会を開催する。2018 年度は公的統計の 2 次利用及び統計 GIS の利用が拡充されたことを受けて、これらの利用促進に重点を置く。

（6） 統計検定受験の促進

統計教育部会と連携し、学習意欲向上のため 2018 年度統計検定の受験への事業協力を行う。学部 1 年次に 3 級、2 年次以上で 2 級・統計調査士を勧める。また、本学学生の統計調査士試験の合格率を高めるため、先の⑦～⑨を使用して学生のための支援活動を実施する。本年度も、統計調査士対策セミナーを外部にも公開する。

2018 年度事業報告

(1) セミナー開催

◆CSI 統計活用セミナー（池袋キャンパス開催）

CSI 統計活用セミナーの目的は、公的統計の利活用について学習することである。春学期は、SPSS を使ったマイクロデータ分析にかんするセミナーを行い、秋学期は、G-Census を使った実践的な統計ツールの活用セミナーと『秀吉』を使ったアンケートの集計・分析方法を紹介するセミナーを開催した。

1. 春学期

講義内容：SPSS によるマイクロデータ分析

- 匿名データ分析の方法と立教大学教育用疑似
マイクロデータを用いた演習

開催日時：2018 年 6 月 22 日（金） 16：40～18：10

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8501 教室

講 師：濱本 真一（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：24 名



2. 秋学期

講義内容：地理情報データ分析セミナー

開催日時：2018 年 9 月 24 日（月） 16：40～18：10

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8503 教室

講 師：小西 純（統計情報研究開発センター 主任研究員）

参加人数：36 名



講義内容：地理情報データ分析セミナー

開催日時：2018 年 10 月 1 日（月） 16：40～18：10

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8503 教室

講 師：小西 純（統計情報研究開発センター 主任研究員）

参加人数：27 名

講義内容：地域産業振興のための事業所調査の分析<基礎編>

開催日時：2018 年 12 月 3 日（月） 16：40～18：10

場 所：池袋キャンパス 8 号館 8404 教室

講 師：菊地 進（立教大学 名誉教授）

参加人数：16 名



講義内容：地域産業振興のための事業所調査の分析<応用編>

開催日時：2018年12月10日（月） 16：40～18：10

場 所：池袋キャンパス 8号館 8404 教室

講 師：菊地 進（立教大学 名誉教授）

参加人数：13名

◆統計調査士対策セミナー

統計検定統計調査士試験のための対策セミナーを以下の通り開催した。
オリジナルテキスト『統計調査士対策コンテンツ 第4版』および『統計調査士試験 得点源対策問題集』を使用した実践的なセミナーである。
なお、本セミナーは Blackboard で配信を行っている。



<第1回> 「統計制度で点数アップ」一般公開セミナー

開催日時：2018年10月19日（金）18：20～19：50

場 所：池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師：西林 勝吾（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：3名

<第2回> 「図表を読んで点数アップ」

開催日時：2018年10月26日（金）16：40～18：10

場 所：池袋キャンパス 8号館 8501 教室

講 師：濱本 真一（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：0名 ※参加者がいなかったため中止



（2）調査・分析の受託事業

1. 福岡県田川市より2017年度に実施された「田川市中小企業振興基本調査」の分析依頼があり、事業を受託した。2018年度は、11月に福岡県立大学にて「田川市中小企業振興基本調査報告会」を開催し、302名の参加者があった。そして2019年2月に報告書『中小企業の熱意が田川を変えていく 2017年田川市中小企業振興基本調査』を発行した。また、経済センサス活動調査を利用した分析を田川市HPより公表した。

<プロジェクトメンバー>

櫻本 健（政府統計部会 リーダー・立教大学経済学部 准教授）プロジェクトリーダー

菊地 進（福岡県田川市プロジェクト兼愛媛県東温市プロジェクト代表、立教大学名誉教授）

藤野 裕（日本農業経営大学校専任講師）

菊池 航（立教大学経済学部 准教授）

濱本 真一（立教大学社会情報教育研究センター 助教）
 山口 隆太郎（立教大学経済学部 助教）
 西林 勝吾（立教大学社会情報教育研究センター 助教）
 倉田 知秋（総務省政策統括官（統計基準担当）付統計審査官付）
 則竹 悟宇（リサーチアシスタント、立教大学大学院経済学研究科博士課程前期課程）
 三田 匡能（学生アルバイト、立教大学経済学部 学生）
 井延 彩花（学生アルバイト、立教大学経済学部 学生）



2. 愛媛県東温市より 2017 年 11 月に発行した『東温市を支える中小零細企業--2016 年東温市事業所現状把握調査』の資料版作成の依頼を受けた。そのため、2019 年 2 月に『東温市を支える中小零細企業--2016 年東温市事業所現状把握調査 資料版』を発行した。



（3）2018 年度事業を振り返って

福岡県田川市から受託を受け、2018 年 11 月に福岡県田川市での報告を実施し、市民版報告書をはじめ、報告書や成果物一式を作成して業務を無事に終わらせることができた。同様に愛媛県東温市からも 2017 年度報告書の詳細版を作成する事業の依頼を受託し、成果物を納品した。

事業計画に記載した部会作成の①～⑨のコンテンツ（⑨は新規作成予定）について、講習会や授業内利用による経験を踏まえ、さらなる内容の改良を図る。⑦は統計法改正に合わせて、改訂内容を盛り込んだ統計調査士対策コンテンツ第 4 版第 2 刷を統計調査士試験の対策セミナーに利用し、さらに「日本の公的統計・統計調査」という第 5 版の学内資料を印刷した。統計調査士試験の受験料が 2017 年度より学内では有料受験に切り替わったため学内での受験者数は伸び悩んでいるが、一定の需要があることは確かである。2019 年度は⑦統計調査士対策コンテンツと⑧統計調査士対策問題集との一体化および⑨専門統計調査士対策の要点をまとめた冊子の発行も視野に入れる。

2018 年度は経済統計学会に大学院生を連れて参加し、学生による報告を体験させる取り組みを実施した。部会メンバーで院生を引率して、和歌山県に設立された、データサイエンス拠点でのサービスも視察することができた。参加者は実際に統計局や統計センターの幹部、大学研究者からの鋭い指摘に应对し、貴重な経験を積むことができた。この結果は『社会と統計』に掲載されており、詳細はそれに譲る。

2018 年度は全体としてセミナーが比較的盛況であり、学内から多数の受講者が積極的に学ぶ成果が示された。年度末に発行する『社会と統計』に無事 1 本論文を出すことができた。また、2015～2016 年度に実施した「統計調査員プロジェクト」のほぼすべての学生たちが卒業した。2019 年 3 月 19 日の朝日新聞朝刊では、昨今の統計問題についての取材を受け、立教の「統計調査員プロジェクト」についての記事が掲載された。

以上概ね計画した事業が順調に達成できた。

2) 社会調査部会

2018 年度事業計画

(1) 社会調査データアーカイブ (RUDA) プロジェクト

① データ整備業務

- ・2017 年度までに、寄託されたデータセットのうち 54 データをクリーニングし、公開した。2018 年度では、さらに 3 データセットをクリーニングする。
- ・立教大学の社会調査士科目 G (社会調査を実際に経験し学習する科目) で蒐集された、量的な社会調査データを対象に RUDA への寄託についての意向を伺い、寄託されたデータを収集し、公開する。
- ・RUDA の海外への発信力強化に向け、国際基準である DDI(Data Documentation Initiative)フォーマットに基づくメタデータの作成を行う。

② データ提供業務 (データセットの一般公開)

- ・前年度末において、54 データセットを公開している。2018 年度はこれに 3 セットを加え、年度末までに合計 57 データセットを公開する。
- ・DDI フォーマットで記述されたメタデータを RUDA にて公開を行う。

③ RUDA データの利用促進に向けた取り組み

- ・社会調査活用セミナーの開催：RUDA データの教育・研究利用をさらに促進するため、データの利活用に関するセミナーを開催する。具体的には、RUDA を中心としたデータアーカイブの利活用をテーマとするセミナーを年に 1 回行い、RUDA データを利用した 2 次分析のやり方に関するセミナーを年 2 回行う。これらの成果を踏まえ、将来的には Web コンテンツの作成などを行い、より広範な RUDA データの利用に向けた基盤構築につなげることを想定している。

④ アーカイブ事業の協力体制

- ・DDI を基盤として、国内外アーカイブとの連携事業を行い、より広範な 2 次利用環境の整備、そしてアーカイブ事業に関わる研究協力基盤の構築を行う。具体的には以下の 2 つの事業を行う。

相互検索システムの構築：

RUDA と国内外アーカイブでそれぞれが所有しているデータを一元的に検索することができるシステムを構築し、網羅的・効率的なデータ検索環境の整備を行う。そのために、NII が開発したオープンサイエンスのための研究データ基盤を用いた共同研究を推進する。

研究協力基盤の構築：

データアーカイブ運営の在り方をテーマとする研究基盤を国内外アーカイブとの共同のもと整備し、国内アーカイブ水準の改善に向けた研究発信を行う。そのために、国際会議 IASSIST にて先進的な海外アーカイブ事情を確認し、改善案を模索する。

(2) 社会調査士資格関連事業

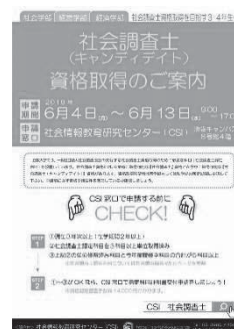
① 社会調査士・専門社会調査士科目申請の支援

組織会員として加入している社会調査協会に対し、学内における一元的な連絡責任者として、学部・研究科内の学内連絡責任者と連携して社会調査士・専門社会調査士カリキュラムの科目申請事務を行う。また、学部・研究科が設置する資格対応科目の認定申請に関する相談受付などの諸支援を行う。

② 社会調査士・専門社会調査士取得申請の支援

教務事務センターと連携して学部学生・大学院学生が社会調査士・専門社会調査士資格取得支援体制を整備し、取得希望者に対する相談・申請の受付業務を行うとともに、資格申請に関する学内広報を行う。

また、教務事務センターと連携して2012年度より導入した指定科目証明書発行システムの運用を通じ、資格取得相談から申請までの一貫した窓口業務を提供する。



③ 社会調査協会の講習事業への協力

社会調査協会と連携し、同協会が講習事業として実施する専門社会調査士(正規)の資格取得をめざす大学院生向け講習会(S科目講習会)、および実務者向け講習会(アドバンスド・セミナー)等の開催に協力する。2018年度は、S1科目講習会とS2科目講習会(2018年9月、2019年2月開催予定)への協力を行う。

(3) その他対外連携事業

- ・ ICPSR (Inter-university Consortium for Political and Social Research) の国内利用協議会を通じた会員機関として、その所蔵データ利用の学内広報につとめる。
- ・ ICPSR 本部が実施するサマープログラム(セミナー)、および ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報につとめる。

(4) 社会調査フォーラムの開催

統計的社会調査の理論と方法に関する実践例の紹介を企図とするセミナー(社会調査フォーラム)を、1回以上開催する。具体的には、外部から社会調査の経験がある研究者を招聘し、社会調査の実際をテーマとする研究会の開催を通して、その理論や方法を広く学ぶ機会を設ける。または、社会調査データを活用している実務家をお招きし、活用に至った経緯やその実践と意義に関する講演会を開催する。

(5) 社会調査に関わるコンサルティング事業

- ① 学内研究者と大学院学生に対し、社会調査の企画・設計に関する相談を受け付ける。
- ② 学内部局に対して、社会調査の企画・設計の諸方法に関する相談、および統計分析に関する相談を受け付ける。

2018年度事業報告

(1) 社会調査データアーカイブ(RUDA)プロジェクト

立教大学社会調査データアーカイブ(Rikkyo University Data Archive: RUDA)は、研究目的や教育目的の二次分析のため、以下の通りデータセットを公開している。2018年度は4データセットを新たに公開し、ruda0001からruda0020のメタデータを国際標準規格DDI形式にて公開した。

〈2018年度 公開データセット：4件〉

公開日	調査名
2018年4月2日	くらしの中の文化と政治・社会意識についての調査
2018年9月10日	生活と防災についての市民意識調査（福島県調査）
2018年9月10日	生活と防災についての市民意識調査（宮城県調査）
2018年9月10日	生活と防災についての市民意識調査（東京都調査）

また、DDIを基盤としたメタデータの公開および他アーカイブとの連携事業のため、昨年度10月から今年度9月まで共同研究「国内社会科学系データアーカイブの公開・検索ポータル構築に向けたフィージビリティスタディ」を行った。本共同研究は、国内に複数ある社会科学系データアーカイブの共通の公開・検索ポータルの開設に向けて、当センターの運営する社会調査データアーカイブ（RUDA）をパイロットケースに、NIIオープンサイエンス基盤研究センターが開発・提供予定の研究データ基盤の利用可能性を研究するものである。研究途中で、東京大学社会科学研究所の運営するSSJDA（Social Science Japan Data Archive）も加わり、共同で実験を行った。

この研究の成果を、社会科学系データアーカイブの国際会議であるIASSIST & CARTO 2018にて、口頭発表およびポスター発表し、参加者から高い関心を得た。

〈プロジェクトメンバー〉

研究代表者： 船守 美穂（国立情報学研究所 准教授）
 山地 一禎（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター センター長）
 林 正治（国立情報学研究所サイバーセキュリティ研究開発センター 特任助教）
 松本 康（社会情報教育研究センター センター長・立教大学 社会学部 教授）
 岩間 暁子（立教大学 社会学部 教授）
 朝岡 誠（立教大学 社会情報教育研究センター 助教）
 前田 豊（関西学院大学 社会学部 助教／研究協力者）

〈プロジェクト成果〉

- ・ 前田 豊・朝岡 誠, 2018, 「RUDAのDDI対応に向けた取り組み」『社会と統計』 4:25-35.
- ・ Makoto Asaoka, Yutaka Maeda, Miho Funamori, Masaharu Hayashi and Kazutsuna Yamaji, 'A Pilot Study towards Cross-Searchable Social Science Data Archive in Japan' IASSIST & CARTO 2018, Montreal, May 30, 2018.
- ・ Miho Funamori, Masaharu Hayashi, Kazutsuna Yamaji, Makoto Asaoka, Yutaka Maeda and Satoshi Miwa, 'Enabling Cross-Search across Social Science Data Archives in Japan--Initiative as part of National Endeavor to Establish Open Science Infrastructure' IASSIST & CARTO 2018, Montreal, May 31, 2018.
- ・ 船守 美穂, 林 正治, 加藤 文彦, 三輪 哲, 朝岡 誠, 高橋 かおり, 前田 豊, 「国内社会科学系データアーカイブの横断検索に向けての試行と検討」 第91回日本社会学会大会, 神戸市, 2018年9月16日.

(2) セミナー・各種イベント開催

近年、統計的な社会調査データを用いた実証分析や統計・社会調査教育への関心が高まり、社会調査データアーカイブを通じて公開されたデータを利用した二次分析や統計教育が注目されている。

2018年度は以下のフォーラム・セミナーを開催した。

◆CSI社会調査データ活用セミナー

〈第1回〉

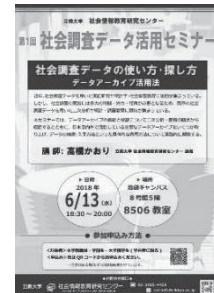
テーマ：社会調査データの使い方・探し方—データアーカイブ活用法—

開催日時：2018年6月13日（水） 18：30～20：00

場所：池袋キャンパス 8号館 8506 教室

講師：高橋 かおり（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：17名



〈第2回〉

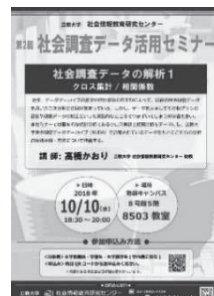
テーマ：社会調査データの解析1～クロス集計/相関係数編～

開催日時：2018年10月10日（水） 18：30～20：00

場所：池袋キャンパス 8号館 8503 教室

講師：高橋 かおり（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：5名



〈第3回〉

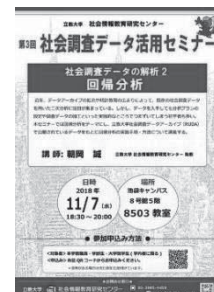
テーマ：社会調査データの解析2～回帰分析編～

開催日時：2018年11月7日（水） 18：30～20：00

場所：池袋キャンパス 8号館 8503 教室

講師：朝岡 誠（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：5名



◆第9回社会調査フォーラム

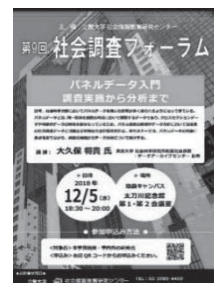
テーマ：パネルデータ入門：調査実施から分析まで

開催日時：2018年12月5日（水） 18：30～20：00

場所：池袋キャンパス太刀川記念館 第1・第2会議室

講師：大久保 将貴（東京大学社会科学研究所 助教）

参加人数：9名



◆共催・後援セミナー等

社会調査協会では、社会調査士資格を持たない大学院学生および実務者の専門社会調査士資格取得を支援するために、社会調査士資格標準カリキュラム A,B,C 科目に対応する S1 科目と、標準カリキュラム D,E 科目に対応する S2 科目の講習会を行っている。社会調査部会では、これらの講習会の開催協力を行った。

●社会調査協会 2018年度社会調査士科目(S1)講習会

日程：2018年9月8日(土)～11日(火) 9:00～17:50

場所：池袋キャンパス 8号館 8404教室

-9月8日(土)：

- 1限 オリエンテーション：社会調査の意義と役割
- 2限 社会調査の歴史・倫理
- 3限 社会調査の種類と実例：政府統計と様々な社会調査
- 4限 質的調査の概要：事例研究法・フィールドワーク
- 5限 多様な質的調査の方法と実際

-9月9日(日)：

- 1限 量的調査の企画・設計と調査の実施方法
- 2限 質問文・選択肢の作り方と調査票の設計
- 3限 サンプリングの考え方
- 4限 サンプリングの実際

-9月10日(月)：

- 1限 調査データの整理：エディティング・コーディング・データ入力
- 2限 単純集計・度数分布とデータ・クリーニング
- 3限 平均・分散・標準偏差
- 4限 分布の読み方
- 5限 推定の考え方

-9月11日(火)：

- 1限 クロス集計表の読み方・作り方
- 2限 カイ二乗検定と連関の指標
- 3限 クロス表のエラボレイション
- 4限 相関関係と因果関係
- 5限 調査・分析結果の読み方・まとめ方

講師：菅野 剛 (日本大学 文理学部 教授)
三井 さよ (法政大学 社会学部 教授)
土屋 隆裕 (横浜市立大学 データサイエンス学部 教授)
金井 雅之 (専修大学 人間科学部 教授)
廣瀬 毅士 (東京通信大学 情報マネジメント学部 准教授)

●社会調査協会 2018年度社会調査士科目(S2)講習会

日程：2019年2月28日(木)～3月5日(火) 9:00～17:50

場所：池袋キャンパス 7号館 7204教室・7205教室

-2月28日(木)：

- 1限 統計データと統計分析ソフト
- 2限 代表値とばらつき
- 3限 関連を捉える
- 4限 確率論の基礎
- 5限 統計的なプレゼンテーション

-3月1日(金)：

- 1限 統計的推測の基礎
- 2限 統計的推定の実際
- 3限 統計的検定の実際
- 4限 クロス表の検定
- 5限 相関係数の検定

-3月4日(月) :

- 1 限 中間試験
- 2 限 単回帰分析
- 3 限 多変量解析の目的と意義
- 4 限 重回帰分析の実際
- 5 限 重回帰分析の限界と他のモデルへの拡張

-3月5日(火) :

- 1 限 さまざまな多変量解析
- 2 限 その他の多変量解析1 (分散分析)
- 3 限 その他の多変量解析2 (主成分分析)
- 4 限 その他の多変量解析3 (探索的因子分析)
- 5 限 レポート作成実習

講師：保田 時男 (関西大学 社会学部 教授)

三輪 哲 (東京大学 社会科学研究所 教授)

社会調査士資格関連事業、社会調査に関わるコンサルティング事業、その他対外連携事業 (ICPSR) については別途記載する。

(3) 2018 年度事業を振り返って

RUDA に関しては、昨年度と同様に目標数を超える 4 つのデータセットをクリーニングし、公開することができ、国際基準である DDI フォーマットに基づくメタデータを作成し、公開することができた。また NII との共同研究を通じて、国内アーカイブとの研究協力基盤を構築することができた。

CSI 社会調査データ活用セミナーや社会調査フォーラムに関しては、院生・研究者向けの内容に変更したが、時間的制約によって消化不良な面がみられる。実習編を分けるなど工夫が必要であろう。

3) 統計教育部会

2018 年度事業計画

(1) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営

『社会調査入門』の管理・運営

『データ分析入門』の管理・運営

『社会調査の技法』の管理・運営

『データの科学』の管理・運営

『多変量解析入門』の管理・運営

『Introduction to Statistics 1』の管理・運営

『Introduction to Statistics 2』の管理・運営

これら 7 科目の詳細は「オンデマンド授業」より閲覧することが可能である。

(2) 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業用教材の評価と検証

受講生の学習履歴データ、モニター学生からのコメントなどをもとに、オンデマンド授業用の教材を定量的に評価・検証する。

(3) CSI 統計分析セミナーの開催

学部学生・大学院生・教職員の統計・調査リテラシー向上のための、統計分析セミナーを、オンデマンドで開講する。上記の CSI 統計分析セミナーを、池袋キャンパスと新座キャンパスで開催するとともに、オンラインコースでも実施する。

(4) 統計教育のための教材およびプログラムの新規開発

社会から求められる人材育成のための、新たな教育プログラムや教材を開発する。

(5) 統計教育フォーラム・公開講演会の開催

社会調査や統計関係の科目担当者向けの FD を行う場としての統計教育フォーラムや統計教育の開発や推進のための公開講演会を開催する。

(6) 「統計検定」の学内試験実施および統計関連の試験導入の検討

立教大学学生が学内で「統計検定」を受験できるための環境を提供するとともに、その準備講座を開講する。またこの他統計教育に関連する試験導入の検討を行う。

(7) 学外統計教育関連行事への共催や後援

スポーツデータ解析コンペティションをはじめとする学内外での統計教育関連の事業への関与を通じ、社会的貢献を行う。

(8) スーパーサイエンススクール選定校との高大連携プログラムの開発実施

統計やデータ活用に関する高大連携プログラムの開発と実施を行う。

(9) 大学間連携共同教育推進事業への取組

拡大版 JINSE に参加して、加盟大学と継続して統計教育改善の活動を行う。

(10) データサイエンス副専攻の導入に向けた準備

新設されるデータサイエンス副専攻の導入に向けた準備を行う。

(11) オンデマンド科目の英語版の作成

既存の提供科目であるオンデマンド科目について、英語による翻訳を行い、英語版のコンテンツを作成する。

2018 年度事業報告

(1) オンデマンド授業・セミナー等について

◆ 全学共通カリキュラム・オンデマンド授業の管理・運営を行った。受講者数は下記の通り、その他の詳細は別途記載している。

『社会調査入門』 受講者数：100 名

『データ分析入門』 受講者数：87 名

『社会調査の技法』 受講者数：71 名

『データの科学』 受講者数：53 名

『多変量解析入門』 受講者数：22 名

『Introduction to Statistics 1』 受講者数：9 名

『Introduction to Statistics 2』 受講者数：11 名

◆ CSI 統計分析セミナー

CSI 統計分析セミナーは Blackboard を通じて配信するオンデマンド型のセミナーである。既存の SPSS 統計解析 (Basic コース/SEM コース) および R 統計解析 (基本コース/多変量解析コース) に加え、2018 年度には統計検定対策セミナーコースの配信を開始した。

【現在公開中のコース】

1. SPSS 統計解析 (Basic コース)

統計解析ソフト SPSS に関する基本動作を習得し、簡単な統計処理を行うための技術を身に着ける。また同時に、関連する統計学の基本的な事項についても学習する。基本統計量に加え、質的変数、量的変数に焦点を絞り、これらの変数を適切に集計、解析をできるレベルの操作を行う。

講 師：大橋 洸太郎 (前 社会情報教育研究センター 助教)

2018 年度登録者数：54 名

2. SPSS 統計解析 (SEM コース)

統計解析ソフト Amos に関する基本動作を習得し、SEM によるモデル構築と分析結果の確認を行うための技術を身

に着ける。また同時に、一般的によく用いられるモデルの紹介を行い、それらの分析を通してモデル構築や評価に習熟する。

講 師：大橋 洸太郎（前 社会情報教育研究センター 助教）

2018 年度登録者数：18 名

3. R 統計解析（基本操作コース）

統計解析環境 R の動作に関して、R の起動からデータの保存、終了の仕方などの基本操作に習熟する。また、スクリーンの書き方を通じて、簡単なデータハンドリングの技術を身に着ける。

講 師：大橋 洸太郎（前 社会情報教育研究センター 助教）

2018 年度登録者数：138 名

4. R 統計解析（基本操作コース 2）

- ・ R を使って 1 変数の集計ができるようになる。
- ・ R を使って 2 つの質的変数の関係性を把握する。
- ・ R を使って 2 つの量的変数の関係性を把握する。

講 師：大橋 洸太郎（前 社会情報教育研究センター 助教）

2018 年度登録者数：33 名

5. R 統計解析（多変量解析コース 1）

第 1 回 R/R Studio の使い方

第 2 回 重回帰分析

第 3 回 分散分析（1, 2 要因参加者間実験）

講 師：大橋 洸太郎（前 社会情報教育研究センター 助教）

2018 年度登録者数：21 名

6. R 統計解析（多変量解析コース 2）

第 1 回 R/R Studio で因子分析

第 2 回 R/R Studio でクラスター分析

第 3 回 これまでのまとめ（春学期/秋学期）

講 師：大橋 洸太郎（前 社会情報教育研究センター 助教）

2018 年度登録者数：18 名

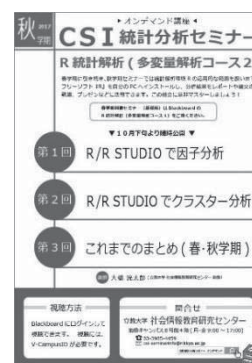
7. 統計検定対策セミナー

春学期：7 回分動画作成

秋学期：17 回分動画作成

講 師：山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

2018 年度登録者数：90 名



◆統計検定ガイダンス・受験対策セミナー

学生が学内で統計検定を受験できるよう、立教大学ではJINSE 特設会場受験制度を導入している。2018年度は6月17日および11月25日に統計検定を大学内会場にて実施した。統計検定の詳細については別途参照されたい。社会情報教育研究センターでは、自主的な統計学習のサポートとして、統計検定ガイダンスや受験対策セミナーを実施している。2級および3級の試験対策として、オンデマンドコンテンツ向けのテキストおよび動画を新たに作成し、配信した。また、統計調査士の受験者向けには試験対策セミナーを開催し、一般参加も受け付け、3名が参加した。

◆統計検定ガイダンス

〈春季〉

開催日時：2018年4月23日（月）12：30～13：00

場 所：池袋キャンパス 8号館 8304 教室 新座キャンパス：N8B1 教室（同時開催）

講 師：山口 和範（経営学部 教授）

参加人数：7名

〈秋季〉

開催日時：2018年10月1日（月）12：30～13：00

場 所：池袋キャンパス 8号館 8303 教室 新座キャンパス：N8B1 教室（同時開催）

講 師：山口 和範（経営学部 教授）

参加人数：3名



◆統計検定対策セミナー（2級模擬試験）

開催日時：2018年10月31日（水）18：20～19：50

場 所：池袋10号館 X102 教室

講 師：山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：5名

開催日時：2018年11月14日（水）18：20～19：50

場 所：池袋10号館 X102 教室

講 師：山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

参加人数：4名



◆高校生向け統計教育セミナー

2018年度も統計教育に関する研修依頼があり、プログラムを実施した。

講義内容：統計的思考力の育成

開催日時：2018年7月30日（月）9：00～17：00

場 所：池袋キャンパス 8号館 8402 教室

講 師：山口 和範（経営学部 教授）

参加人数：千葉市立千葉高等学校の生徒および引率教諭 計11名

(2) 共催・後援セミナー等

◆第8回スポーツデータ解析コンペティション

統計教育部会では、日本統計学会スポーツ統計分科会が主催している「スポーツデータ解析コンペティション」への参加を希望する立教大学の個人参加の学生をチームとして編成し、支援を行うべく体制を整えていたが、2018年度は、個人参加の学生からの申し込みは寄せられなかった。



◆JMOOC『統計学Ⅲ』対面授業

講義内容：多変量データ解析法

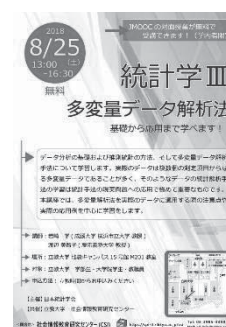
開催日時：2018年8月25日(土) 13:00~16:30

場 所：池袋キャンパス 15号館 M201教室

主 催：日本統計学会、立教大学社会情報教育研究センター

講 演 者：岩崎 学(横浜市立大学 教授)

渡辺 美智子(慶應義塾大学 教授)



◆職員向け情報リテラシー研修

昨年度に引き続き2018年度も、教務部より依頼を受け、本学職員に向けた統計研修を行った。

開催日時：[Day2] 8月31日(金) 13:30~15:30

[Day3] 9月10日(月) 13:30~15:30

主 催：本学教務部

場 所：[Day2] [Day3] 池袋キャンパス 8号館 8501教室

講 師：[Day2] [Day3] 山口 和範(経営学部 教授)

テ ー マ：教務関連データを加工・分析し、意思決定支援に活用する

対 象：本学職員

(3) オンデマンド科目の新規作成および改修

2018年度は、「社会調査入門」および「社会調査の技法」の2科目について、現行の内容のスライドおよびナレーション原稿の英語試訳、また動画内のビデオ教材の文字起こしとその英語試訳を行った。また、Google chromeでFlashコンテンツを含む動画を試聴できないことへの対応として、Flashコンテンツを含むオンデマンド科目「社会調査入門」および「社会調査の技法」のデータ変換作業、オンデマンド科目を一部改修した。

(4) 2018年度事業を振り返って

2018年度より全学生を対象としたグローバル教育副専攻のDiscipline Courseで、Data Scienceがスタートした。また、JINSE版統計検定試験のための学習コンテンツを充実させた。国内および学内外との連携の下、統計教育部会での統計教育の充実のための活動を行い、統計教育の質保証と一層の充実のため、これまでの数々の活動を継続する。

3 資格支援事業

1) 社会調査士

「社会調査士」と「専門社会調査士」は、いずれも一般社団法人社会調査協会が認定するものであり、社会調査の知識と技能を有する専門的な人材の育成を目的として作られた資格である。

社会情報教育研究センターでは、社会調査部会の助教が資格対応カリキュラム導入学部・学科・研究科すべての連絡責任者となり、学生の資格取得や各学部・学科の認定科目申請の支援を行うなど、立教大学内の社会調査士資格にかんする窓口業務を担っている。

◇社会調査士・専門社会調査士 資格制度導入学部・研究科

- ・全学共通カリキュラム（オンデマンド授業）
- ・社会学部 全学科
- ・経済学部 全学科
- ・経営学部 全学科
- ・観光学部 交流文化学科
- ・コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
- ・現代心理学部 心理学科
- ・大学院 社会学研究科
- ・大学院 コミュニティ福祉学研究科

〈資格申請〉

2018年度の社会調査士・社会調査士（キャンディデイト）・専門社会調査士の資格申請・資格取得者数は以下の通りである。

社会調査士 資格申請者数：66名（2018年9月申請分1名、2019年3月申請分65名）

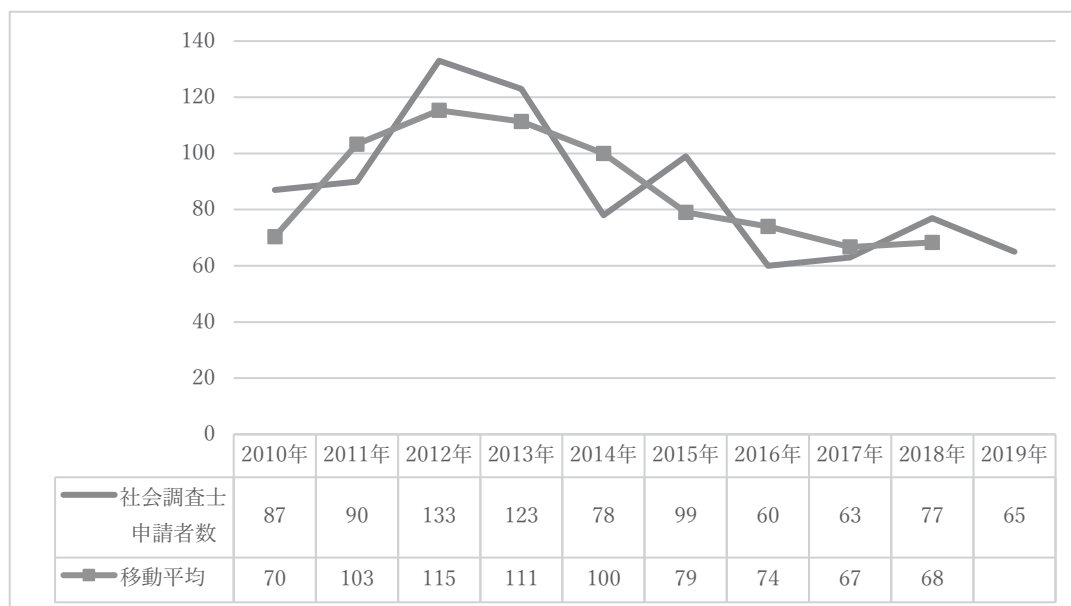
専門社会調査士 資格申請者数：3名（2019年3月申請分）

社会調査士（キャンディデイト）資格取得者数：92名（春学期52名・秋学期40名）

（2019年3月31日時点）

◆ 本学における社会調査士資格ならびにキャンディデイト資格申請の推移

【社会調査士申請者数の推移（2019年3月）】

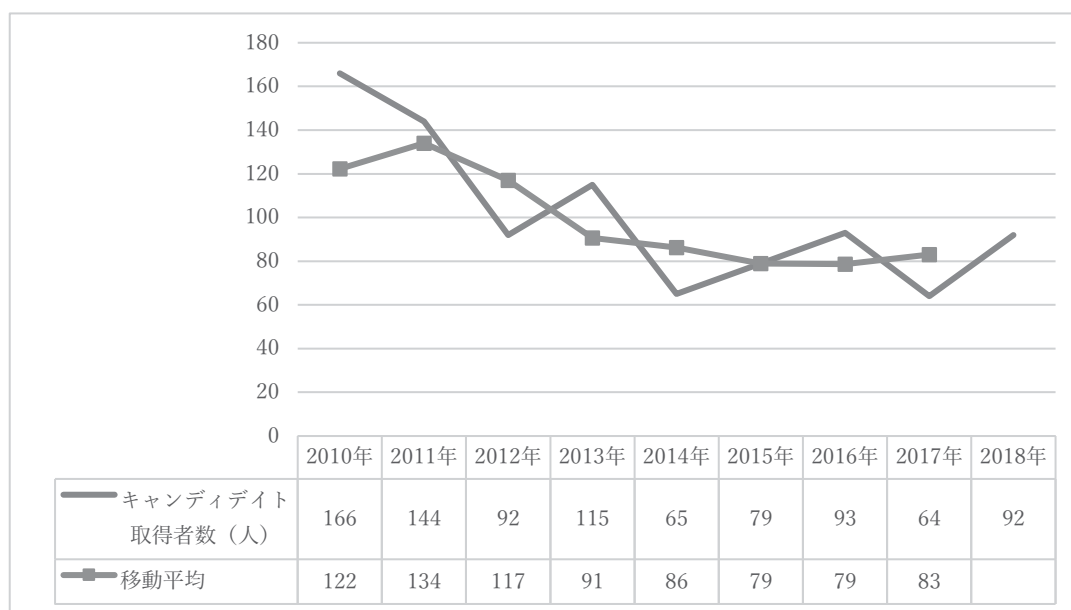


【学部学科別社会調査士・専門社会調査士申請者数（2019年3月）】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	観光学部	現代心理学部 心理学科	大学院		合計
	社会学科	現代文化 学科	メディア 社会学科						社会学研究科	ビジネスデザイン 研究科	
第20回 (2019年春)	11	5	5	5	2	17	1	19	2	1	68

上記のグラフは、2010年度から2018年度末までの、社会調査士の申請者数の推移を示している。2012年をピークに、なだらかに減少傾向が続いている。また下記の表は、2018年度の学部学科別の社会調査士および専門社会調査士の申請者数を示したものである。

【社会調査士（キャンディデイト）取得者数の推移】



本学における社会調査士資格のキャンディデイト申請者数は、上記の表の通り推移している。2010年度に、教務事務センターより窓口業務が移管され、社会情報教育研究センターでの申請受付が始まった。2018年度のカンディデイト申請者数は92名と前年度に比べて28人増加した。

【2018年度学部学科別 社会調査士（キャンディデイト）取得者数】

	社会学部			経済学部	経営学部	コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科	観光学部	現代心理学部 心理学科	合計
	社会学科	現代文化学科	メディア 社会学科						
2018年10月認定者数 (春学期申請)	8	2		4	1	14		23	52
2018年12月認定者数 (秋学期申請)	12	6	3			7	1	11	40
合計	20	8	3	4	1	21	1	34	92

上記の表は、2018年度の学部学科別社会調査士（キャンディデイト）取得者数を示している。社会学部では、他学部に比べて社会調査士科目を取得しやすいカリキュラム設計がなされているため、毎年一定数の学生が申請に訪れている。一方、コミュニティ福祉学部や現代心理学部では、各学部の連絡責任者の関心が高く、授業内で積極的に告知したため、学生の資格の認知度を高めることができ、資格取得者の増加につながったと考えられる。

〈科目申請〉

2018年度は資格取得資格対応カリキュラムを導入する全学部・学科・研究科合計で112科目の認定を受けた。2019年度の対応科目として、116科目（2019年度112科目、2018年度4科目）の認定申請手続きを2018年12月に行った。

2) 統計検定

一般財団法人統計質保証推進協会主催による統計検定は、2018年度は、春季は6月、秋季は11月の2回実施された。

統計検定は、文部科学省および日本学術会議による「大学教育の分野別質保証」の一環として実施された試験であり、統計教育の質保証との関連で位置づけられる。社会情報教育研究センターでは2011年度より団体受験の案内・申し込み受付から統計検定対策セミナー開催に至るまで、統計検定受験者に対する一元的な支援を行っている。

2018年度も、前年度に引き続きJINSE特設会場受験を実施した。本学は、拡大版JINSE（統計教育連携ネットワーク）に加盟しているため、JINSE版統計検定を受験する本学学生に対しては一般の受験料の4割引の金額が適用された。あわせて、統計検定ガイダンス、統計検定対策セミナー、統計調査士試験対策セミナーも実施した。

◆春季日程

実施日：2018年6月17日（日）

会場：池袋キャンパス8号館 8201・8202教室

	準1級	2級	3級	4級	合計
受験申し込み者数	4	12	4	0	20
実受験者数	2	8	4	0	14

◆秋季日程

実施日：2018年11月25日（日）

会場：池袋キャンパス9号館 9B01・9B02・9B03教室

	1級	2級	3級	4級	統計調査士	専門 統計調査士	合計
受験申し込み者数	1	15	14	0	4	0	34
実受験者数	1	12	10	0	3	0	26

4 教育支援事業

1) 正課科目の開発・提供

2018年度も引き続き全学共通カリキュラムのオンデマンド授業「社会調査入門」・「社会調査の技法」・「データ分析入門」・「データの科学」・「多変量解析入門」の運営を行った。また英語科目である「Introduction to Statistics 1」「Introduction to Statistics 2」の運営を開始した。なお、これら7科目は社会調査士資格認定科目となっている。各科目の授業内容についてはシラバスを参照されたい。

◆社会調査入門

【担当者】 朝岡 誠（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 高橋 かおり（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を理解し、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について概説する。社会調査士資格認定科目「A」に対応。

【受講者数】 100名

◆社会調査の技法

【担当者】 朝岡 誠（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 高橋 かおり（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査の技法的な側面に注目し、調査の企画・設計からデータの収集と整理に関する具体的な方法について解説する。社会調査士資格認定科目「B」に対応。

【受講者数】 71名

◆データ分析入門

【担当者】 山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 丹野 清美（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 87名

◆Introduction to Statistics 1

【担当者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育コーチ】 丹野 清美（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会調査データの分析の基本的な知識を修得し、データの記述や簡単な二変数の関連を分析し、結果を適切に整理できるようになる。社会調査士資格認定科目「C」に対応。

【受講者数】 9名

◆データの科学

【担当者】 山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

【教育コーチ】 丹野 清美（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 53名

◆Introduction to Statistics 2

【担当者】 山口 和範（経営学部 教授）、ドイ・ジミー（立教大学 兼任講師）

【教育コーチ】 丹野 清美（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 社会について考え、課題を解決する道具として社会調査データ分析を位置づけ、データを用いて推論や仮説を検証するための手法を体得する。社会調査士資格認定科目「D」に対応。

【受講者数】 11名

◆多変量解析入門

【担当者】 濱本 真一（社会情報教育研究センター 助教）

【授業の目標】 データに潜む重要な情報を明らかにする方法として多変量解析を位置づけ、基本的な考え方、代表的な手法、および社会における活用法を理解する。社会調査士資格認定科目「E」に対応。

【受講者数】 22名

2) 各種コンテンツの開発および改修

◆オンデマンド授業コンテンツの英語化および改修

オンデマンド授業「社会調査入門」および「社会調査の技法」の2科目について、現行の内容のスライドおよびナレーション原稿の英語試訳、また動画内のビデオ教材の文字起こしとその英語試訳を行った。英語化のもととなる日本語コンテンツにも修正の必要な個所が散見されるため、今後も引き続き、社会調査部会や政府統計部会に協力を仰ぎ、日本語のコンテンツ内容の見直しと英語作業を進めていく予定である。

◆統計調査士試験対策

2018年度は『日本の公的統計・統計調査』を作成した。またあわせて、政府統計部会が過去の出題から精選した『統計調査士試験 得点源対策問題集』を発行し、それを利用して統計調査士対策セミナーを1回開催した。

5 研究支援事業

1) 調査研究コンサルティング

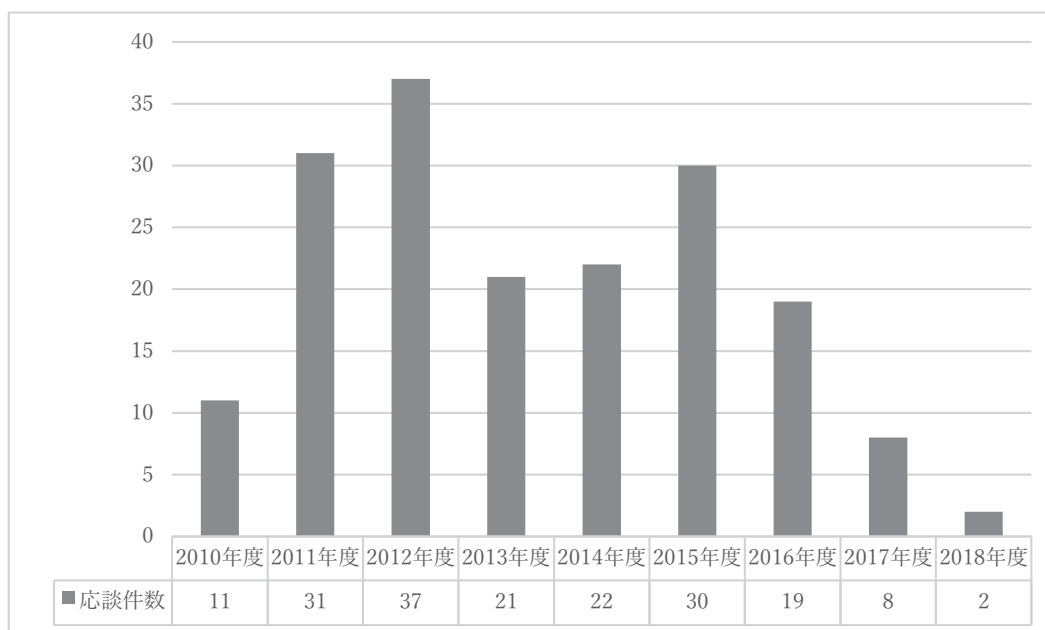
社会情報教育研究センターでは、立教大学の大学院学生や教職員を対象に調査研究に関するコンサルティングを行っている。主な相談内容は、学内アンケートや社会調査の立案や実施、公的統計データの利活用、統計分析に関する相談である。多くは1回にとどまらず、その後の調査経過も含めて継続的なコンサルティングとなっている。

2018年度のコンサルティング応談件数は2件であった。2017年度より、コンサルティングを申し込む際にコンサルティングフォームに相談者の指導教授の氏名や連絡先を記入する欄を設けた。このことにより、コンサルティングを受ける前に指導教授に連絡する必要性が生じ、コンサルティングの申し込み数の減少につながったものと考えられる。相談内容の聞き取りを進めていく過程で、セミナー受講や自学自習によって社会調査や統計分析についての知識を身につけることを勧めた結果、コンサルティングの申し込みにつながらなかったケースもあった。

【2018年度社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数】

	個人による依頼	総計
ビジネスデザイン研究科	1	1
経済学研究科	1	1
総計	2	2

【社会情報教育研究センター コンサルティング応談件数 年度別推移】



2) 統計セミナーサポートスタッフ

2015 年度よりメディアセンターと連携し、大学院学生のアルバイトスタッフが、社会情報教育研究センター主催の各種セミナーでのセミナーサポート業務、および図書館での SPSS などの統計ソフトウェアに関する応談業務に就いている。2018 年度はセミナーサポートが 1 件、統計ソフトウェアの応談が 0 件であった。

3) 対外連携活動

◆社会調査協会

一般社団法人社会調査協会と連携し、同協会が実施する講習会事業の開催協力を行っている。2018 年度は社会調査士科目 (S1) 講習会、および社会調査士科目 (S2) 講習会への開催協力を行った。詳細は「2-2) 各部会事業計画および事業報告 社会調査部会」の「◆共催・後援セミナー等」に掲載している。

◆ICPSR (本部および国内利用協議会)

ICPSR (Inter-university Consortium for Political and Social Research : 政治・社会調査のための大学間コンソーシアム、本部 : ミシガン大学 社会調査研究所) は、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集・保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する、世界最大級のデータアーカイブである。立教大学は、国内利用協議会 (ハブ機関 : 東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター) を通じて加盟している ICPSR の会員機関である。

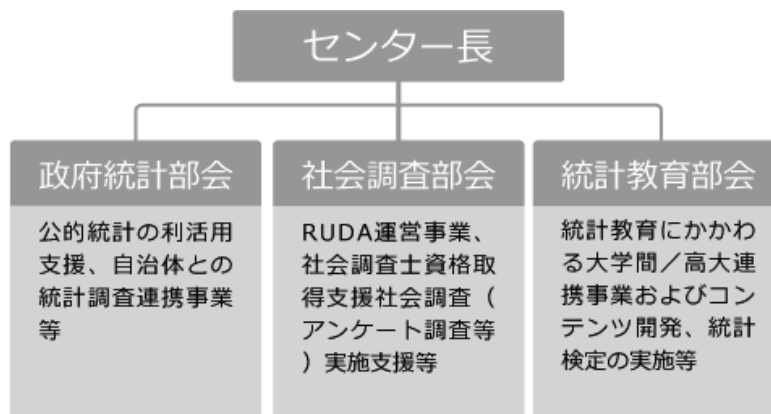
社会情報教育研究センターは、この ICPSR のデータアーカイブ機能の利用にかんする学内広報を担当するとともに、ICPSR 本部が実施するサマープログラム (セミナー)、さらには ICPSR 国内利用協議会が実施する夏季統計セミナー等の活動に関する学内広報を行った。

6 出版物

- 『日本の公的統計・統計調査』
- 『統計調査士試験 得点源対策問題集』
- 『東温市を支える中小零細企業 2016年東温市事業所現状把握調査 資料版』
- 『中小企業の熱意が田川を変えていく 2017年田川市中小企業振興基本調査』
- 社会情報教育研究大学院パンフレット（日本語版・英語版）
- NEWS LETTER (Vol. 1, Vol. 2)
- 社会情報教育研究センター研究紀要『社会と統計』（第5号）

7 組織図および構成メンバー

社会情報教育研究センターの組織図は以下の通りである。



■センター長

松本 康（社会学部 教授）

《政府統計部会》

■部会リーダー

櫻本 健（経済学部 准教授）

■部会メンバー

安藤 道人（経済学部 准教授）

濱本 真一（社会情報教育研究センター 助教）

西林 勝吾（社会情報教育研究センター 助教）

則竹 悟宇（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

三田 匡能（経済学部学生）

井延 彩花（経済学部学生）

■研究協力者

菊地 進（名誉教授）

藤野 裕（日本農業経営大学校 専任講師）

倉田 知秋（総務省政策統括官（統計基準担当）付統計審査官付）

菊池 航（経済学部 准教授）

山口 隆太郎（経済学部 助教）

小西 純（（公財）統計情報研究開発センター）

■連携機関

法政大学日本統計研究所

《社会調査部会》

■部会リーダー

岩間 暁子（社会学部 教授）

■部会メンバー

松本 康（社会学部 教授）

高木 恒一（社会学部 教授）

朝岡 誠（社会情報教育研究センター 助教）

高橋 かおり（社会情報教育研究センター 助教）

佐藤 裕亮（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

渡辺 浩平（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

李 聡智（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

トウブン（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

宮澤 篤史（社会情報教育研究センター リサーチアシスタント）

■研究協力者

前田 豊（関西学院大学 社会学部 助教）

《統計教育部会》

■部会リーダー

山口 和範（経営学部 教授）

■部会メンバー

都築 誉史（現代心理学部 教授）

山口 誠一（社会情報教育研究センター 助教）

丹野 清美（社会情報教育研究センター 助教）

《社会情報教育研究センター事務局》

毛利 立夫（総務部情報システム課 担当課長）

宮本 信愛（総務部情報システム課 課員）

重田 根見子（総務部情報システム課 課員）

木田 英樹（総務部情報システム課 課員）

加藤 倫子（社会情報教育研究センター・教育研究コーディネーター）

小山田 基香（社会情報教育研究センター・教育研究コーディネーター）

服部 好美（社会情報教育研究センター事務局）

内河 真由美（社会情報教育研究センター事務局）

